

## 総合診療部

和田 晃

総合診療部は、これまで各診療科、当直、研修医が個別に行っていた診療のうち、一般救急の中で専門診療科の特定が困難な症例や合併症を有する症例の診療を行い、また一般内科の初診症例の初療を担当する。このために内科全般についての広い知識・技能を核としさまざまな患者の状態に対応できる総合診療医として、救急患者の初療や症候診断、複数疾患を有する患者の診療能力を幅広く身につけた医師の育成を目指す。研修医、専修医に対しては総合診療医としての診断能力、治療手技の習得を目指す研修の場を提供している。

### 【2012 年度研究発表業績】

A-0

Yamanaka K, Yamamoto A, Ishida K, Matsuzaki J, Ozaki T, Ishihara M, Shimahara Y, Nakajima S, Sadamitsu D, Yamasaki M. Successful endovascular therapy of a penetrating zone III jugular bulb injury. A case report. *Inerv*

*Neuroradiol*; 18(2):195-199 (2012 年 6 月)

A-6

中島 伸 : モック・トライアル (その 2) 「レジデントノート」 14(2): 481-483, 2012 年 4 月

中島 伸 : この怪我をみたら要注意! 「レジデントノート」 14(3): 653-655, 2012 年 5 月

中島 伸 : 史上最強の入れ歯 「レジデントノート」 14(4): 815-817, 2012 年 6 月

中島 伸 : 不眠体験談 「レジデントノート」 14(6): 1221-1223, 2012 年 7 月

中島 伸 : 初期診療トライアル再び 「レジデントノート」 14(7): 1385-1387, 2012 年 8 月

中島 伸 : 上手くいく学会発表 「レジデントノート」 14(9): 1811-1813, 2012 年 9 月

中島 伸 : 手強い主訴 「レジデントノート」 14(10): 1957-1959, 2012 年 10 月

中島 伸 : 医療の多面性 「レジデントノート」 14(12): 2391-2393, 2012 年 11 月

中島 伸 : 後医は前医をそしるべからず 「レジデントノート」 14(13): 2547-2549, 2012 年 12 月

中島 伸 : Lang-8 (ランゲート) が面白い! 「レジデントノート」 14(15): 2927-2929, 2013 年 1 月

中島 伸 : 「戦略おべっか」 について 「レジデントノート」 14(16): 3070-3072, 2013 年 2 月

中島 伸 : TED で英語の勉強 「レジデントノート」 14(18): 3513-3515, 2013 年 3 月

B-2

Kanemura Y, Shofuda T, Kanematsu D, Matsumoto Y, Yamamoto A, Nonaka M, Moriuchi S, Nakajima S, Suemizu H, Nakamura M, Okada Y, Okano H, Yamasaki M. In vitro Chemosensitivity of human glioma stem cells compared with that of normal neural stem cells from human iPS cells. ISSCR 10th Annual Meeting, Yokohama, Japan, 2012 年 6 月

Oshida N, Nonaka M, Yokota C, Nakajima S, Yamasaki M. Seccession from a shunt dependency in patients with childhood hydrocephalus. 40th Annual Meeting of the International Society for Pediatric Neurosurgery. Sydney, Australia, 2012 年 9 月

Nonaka M, Oshida N, Yokota C, Yamasaki M, Nakajima S. Induction of symptomatic Chiari II malformation by rapid reduction of intracranial pressure. 40th Annual Meeting of the International Society for Pediatric Neurosurgery. Sydney, Australia, 2012 年 9 月

Yokota C, Nonaka M, Oshida N, Nakajima S, Yamasaki M. Endoscopic Third Ventriculostomy (ETV) for Syringomyelia associated with Hydrocephalus. 40th Annual Meeting of the International Society for Pediatric Neurosurgery. Sydney, Australia, 2012 年 9 月

Oshida N, Nonaka M, Nakajima S, Yamasaki M. Natural history of the intracranial cysts. Hydrocephalus 2012 Kyoto, Kyoto, Japan, 2012 年 10 月

Nonaka M, Oshida N, Yokota C, Yamasaki M, Nakajima S. Shunt removal for shunt-dependent childhood hydrocephalus. Hydrocephalus 2012 Kyoto, Kyoto, Japan, 2012 年 10 月

Kanemura Y, Sumida M, Yoshioka E, Yamamoto A, Kanematsu D, Matsumoto Y, Fukusumi H, Takada A, Nonaka M, Nakajima S, Mori K, Goto S, Kamigaki T, Maekawa R, Shofuda T, Moriuchi S, Yamasaki M. Systemic adoptive immunotherapy using autologous lymphokine-activated killer cells improves temozolomide-induced lymphopenia of glioblastoma patients. 2012 SNO 17th Annual Scientific Meeting, Washington DC, USA, 2012 年 11 月

Nonaka M, Bamba Y, Kanemura Y, Nakajima S. Overcoming brain shift during neuronavigation-guided glioma surgery. 2012 SNO 17th Annual Scientific Meeting, Washington DC, USA, 2012 年 11 月

Kinoshita M, Hirayama R, Chiba Y, Kagawa N, Nonaka M, Kanemura Y, Kishima H, Nakajima S, Hatazawa J, Hashimoto N, Yoshimine T. Differentiation between high- and low-grade MR non-enhancing gliomas using PET-comparison of 11C-methionine, FDG PET, and 11C-methionine/FDG decoupling score. 2012 SNO 17th Annual Scientific Meeting, Washington DC, USA, 2012 年 11 月

### B-3

埜中正博、押田奈都、横田千里、木谷知樹、森 康輔、中島伸、山崎麻美：当院における小児脳神経外科手術時のセッティングーナビゲーションを中心に。第 40 回日本小児神経外科学会、岡山、2012 年 6 月

埜中正博、馬場庸平、横田千里、木谷知樹、押田奈都、森康輔、金村米博、中島伸：三次元融合画像による計画に基づいた神経膠腫の手術。第 17 回日本脳腫瘍の外科学会、東京、2012 年 9 月

押田奈都、埜中正博、横田千里、木谷知樹、森康輔、金村米博、山中一功、山崎麻美、中島伸：頭蓋内嚢胞疾患の自然歴。日本脳神経外科学会第 71 回学術総会、大阪、2012 年 10 月

横田千里、埜中正博、押田奈都、木谷知樹、森康輔、金村米博、山中一功、中島伸、山崎麻美：乳幼児の急性硬膜下血腫と受傷機転に関する検討—自白、裁判を通して認定された虐待症例との比較—。日本脳神経外科学会第 71 回学術総会、大阪、2012 年 10 月

埜中正博、押田奈都、森 康輔、横田千里、木谷知樹、山崎麻美、中島 伸：小児期水頭症のシャント離脱における内視鏡下第三脳室底開窓術の現状と今後の展望。第 19 回日本神経内視鏡学会、東京、2012 年 11 月

中島伸：看護学生に期待すること。第 66 回国立病院総合医学会、大阪、2012 年 11 月

中島伸：模擬医療裁判 もし訴えられたら、どうなるのか？ 第 66 回国立病院総合医学会、大阪、2012 年 11 月

### B-4

倭成史、荒田夕佳、中野知沙子、酒井佳奈紀、和田晃、伊藤孝仁：慢性腎臓病患者における血清尿酸値と CAVI (Cardio-ankle vascular index) の関係。第 55 回日本腎臓学会学術総会、横浜、2012 年 6 月

伊藤孝仁、荒田夕佳、中野知沙子、酒井佳奈紀、和田晃、倭成史：eGFR 変化量に対して尿蛋白・血清尿酸値が与える影響：単施設後方視解析。第 55 回日本腎臓学会学術総会、横浜、2012 年 6 月

伊藤孝仁、荒田夕佳、中野知沙子、酒井佳奈紀、和田晃、倭成史：CKD は正常血糖下の尿糖出現に対するリスク因子。第 55 回日本腎臓学会学術総会、横浜、2012 年 6 月

杉浦寿央、太田亜賀沙、中森綾、田中啓隆、和田晃：Resistive index が高値であるほど CKD の腎予後は不良である。第 55 回日本腎臓学会学術総会、横浜、2012 年 6 月

中野知沙子、荒田夕佳、酒井佳奈紀、倭成史、和田晃、伊藤孝仁：バンコマイシン投与時の初回ト  
ラフ値と腎障害リスクに関する検討。第 57 回日本透析医学会学術集会、札幌、H24 年 6 月

峰松佑輔、倭成史、田岡幸恵、湊拓巳、森耕平、和田晃、伊藤孝仁：腹水濾過濃縮再静注法(CART)  
による炎症関連分子 HMGB-1 濃度変化。第 57 回日本透析医学会学術集会、札幌、H24 年 6 月

荒田夕佳、中野知沙子、酒井佳奈紀、倭成史、和田晃、伊藤孝仁：収縮能良好な非透析腎機能障害  
例における心機能パラメータについて第 57 回日本透析医学会学術集会、札幌、H24 年 6 月

押田奈都、埜中正博、横田千里、中島伸：脊髄髄膜瘤に伴う水頭症に対して VP シャント抜去を行  
った 10 例の検討。第 29 回日本二分脊椎研究会、千葉、2012 年 6 月

横田千里、埜中正博、押田奈都、中島伸：脊髄係留による下肢痛に対してプレガバリンが有効であ  
った一例。第 29 回日本二分脊椎研究会、千葉、2012 年 6 月

埜中正博、押田奈都、横田千里、木谷知樹、森康輔、寺元千佳、中島伸、山崎麻美：脊髄髄膜瘤の  
修復方法によりキアリ奇形の発症は防げるか？第 40 回日本小児神経外科学会、岡山、2012 年 6 月

埜中正博、押田奈都、横田千里、木谷知樹、森康輔、寺元千佳、中島伸、山崎麻美：小児期水頭症  
のシャント離脱における内視鏡下第三脳室底開窓術の意義。第 40 回日本小児神経外科学会、岡山、  
2012 年 6 月

押田奈都、埜中正博、横田千里、木谷知樹、森康輔、金村米博、山中一功、中島伸、山崎麻美：非  
腫瘍性頭蓋内嚢胞性疾患の自然歴。第 40 回日本小児神経外科学会、岡山、2012 年 6 月

横田千里、埜中正博、木谷知樹、押田奈都、森康輔、金村米博、山中一功、中島伸、山崎麻美：水  
頭症に合併する脊髄空洞症に対する内視鏡下第三脳室底開窓術 (ETV) の有用性の検討。第 40 回  
日本小児神経外科学会、岡山、2012 年 6 月

埜中正博、押田奈都、横田千里、木谷知樹、森康輔、金村米博、山崎麻美、中島伸：過去 10 年間  
の治療成績に基づいた先天性水頭症の治療戦略。社団法人日本脳神経外科学会第 71 回学術総会、  
大阪、2012 年 10 月

木谷知樹、埜中正博、横田千里、馬場庸平、押田奈都、森康輔、金村米博、山中一功、中島伸：Low  
grade glioma に対する摘出率向上と神経機能障害の回避を目標とした当院の手術戦略。社団法人日  
本脳神経外科学会第 71 回学術総会、大阪、2012 年 10 月

森康輔、埜中正博、横田千里、木谷知樹、押田奈都、金村米博、山中一功、中島伸：頭蓋底外科領  
域における三次元融合画像を用いた手術シミュレーションの有用性。社団法人日本脳神経外科学会  
第 71 回学術総会、大阪、2012 年 10 月

押田奈都、埜中正博、横田千里、木谷知樹、森康輔、金村米博、山中一功、山崎麻美、中島伸：脳室拡大を伴う小児頭蓋内嚢胞に対する手術戦略。第 19 回日本神経内視鏡学会、東京、2012 年 11 月

森康輔、埜中正博、横田千里、木谷知樹、押田奈都、金村米博、山中一功、中島伸：後頭蓋窩病変による水頭症に対する第三脳室底開窓術の意義。第 19 回日本神経内視鏡学会、東京、2012 年 11 月

Kanemura Y, Sumida M, Yoshioka E, Yamamoto A, Kanematsu D, Matsumoto Y, Fukusumi H, Takada A, Nonaka M, Nakajima S, Mori K, Goto S, Kamigaki T, Maekawa R, Shofuda T, Moriuchi S, Yamasaki M. Clinical usefulness of systemic adoptive immunotherapy using autologous lymphokine-activated killer cells for glioma patients treated by temozolomide. 第 30 回日本脳腫瘍学会学術集会、広島、2012 年 11 月

押田奈都、埜中正博、中島伸：後頭部先天性皮膚洞に合併した脳膿瘍の一例。第 30 回日本こども病院神経外科医会、福岡、2012 年 11 月

#### B-6

荒田夕佳、倭成史、森影直子、藤村龍太、中野知沙子、酒井佳奈紀、和田晃、田村猛、中水流正一、三田英治、伊藤孝仁：急性腎障害 (AKI) を併発した劇症肝炎に対してトロンボモジュリン製剤 (rTM) が奏効した 1 例。第 42 回日本腎臓学会西部学術大会、沖縄、2012 年 10 月

三反田拓志、倭成史、池田弘和、荒田夕佳、中野知沙子、酒井佳奈紀、水野香織、井上信正、和田晃、伊藤孝仁：化学療法中の腫瘍崩壊症候群による急性腎障害に対してトロンボモデリンアルファ (rTM) が有効であった 1 例。第 197 回日本内科学会近畿地方会、神戸、2012 年 6 月

福富啓祐、中野知沙子、荒田夕佳、酒井佳奈紀、倭成史、和田晃、伊藤 孝仁：糖尿病性腎症に合併したびまん性肺胞出血の 1 例。第 197 回日本内科学会近畿地方会、神戸、2012 年 6 月

森影直子、倭成史、田嶋哲三、藤村龍太、荒田夕佳、中野知沙子、和田晃、伊藤孝仁：低マグネシウム血症による随伴症状を呈したテタニー症候群の 1 例。第 199 回日本内科学会近畿地方会、大阪、2012 年 12 月

福富啓祐、綿島史子、和田万葉、小笠原充幸、松本謙太郎、中島伸、和田晃：気道狭窄による呼吸困難と炎症反応上昇を反復した再発性多発軟骨炎の 1 例。第 199 回日本内科学会近畿地方会、大阪、2012 年 12 月

荒田夕佳、中野知沙子、酒井佳奈紀、倭成史、水野香織、池田弘和、井上信正、和田晃、伊藤孝仁：5 年間に 2 回の AKI を発症しいずれも透析離脱しえた骨髄腫の 1 例。第 78 回大阪透析研究会、大阪、2012 年 3 月

倭成史、荒田夕佳、中野知沙子、酒井佳奈紀、和田晃、伊藤孝仁、峰松佑輔、黒岩拓真、森耕平、湊拓巳、田岡幸恵、岡田俊樹：DICを併発した敗血症性ショックに対するPMX-DHPとトロンボモデュリンアルファ(rTM)による併用療法（経時的な血中HMGB-1、IL-6の推移）。第16回エンドトキシン血症救命治療研究会、東京、2012年1月

森 康輔、埜中正博、横田千里、木谷知樹、押田奈都、金村米博、山中一功、中島伸、山崎麻美：トルコ鞍内くも膜嚢胞の一例。第63回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会、大阪、2012年4月

横田千里、埜中正博、押田奈都、木谷知樹、森 康輔、金村米博、山中一功、中島伸、竹林みよ子、山崎麻美、師田信人：機能的後根神経切断術を施行した脳性麻痺児の一例。第63回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会、大阪、2012年4月

木谷知樹、埜中正博、横田千里、押田奈都、森康輔、金村米博、山中一功、中島伸、山崎麻美：三次元融合画像をもとに手術計画を行い一期的に摘出が可能であった脳室内巨大成熟奇形腫の一例。第63回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会、大阪、2012年4月

森康輔、埜中正博、横田千里、木谷知樹、押田奈都、金村米博、山中一功、中島伸：第四脳室内類上皮腫の一例。第64回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会、大阪、2012年9月

木谷知樹、埜中正博、小笠原充幸、横田千里、押田奈都、森 康輔、金村米博、山中一功、中島伸：三次元融合画像をもとにした手術計画で内視鏡下に実施した排膿ドレナージ術が有効であった視床部脳膿瘍の一例。第64回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会、大阪、2012年9月

#### B-7

森康輔、埜中正博、横田千里、木谷知樹、押田奈都、金村米博、山中一功、中島伸：第四脳室内類上皮腫の一例。第74回大阪大学脳神経外科関連施設臨床講話会、大阪、吹田、2013年1月

#### B-8

中島伸：研修医教育のツール「寺子屋」 第30回臨床研修研究会、大阪、2012年4月

中島伸：脳外科疾患の病診連携について～脳卒中二次予防、痙攣コントロールを含めて～ 大阪市中央区東医師会学術講演会、大阪、2012年4月

中島伸：医療安全の基本知識 国立病院機構近畿ブロック事務所平成24年度医療安全管理者養成研修会、大阪、2012年5月

中島伸：記者会見の準備 国立病院機構近畿ブロック事務所平成24年度医療安全管理者養成研修会、大阪、2012年5月

中島伸：脳神経外科領域におけるベイズ推定の活用 第73回大阪大学脳神経外科関連施設臨床懇

話会、大阪、2012年7月

中島伸：ワールド・カフェとは？ 国立病院機構本部 平成24年度医師共同宿泊研修、静岡、2012年8月

中島伸：一般外来における軽症脳外科疾患、ありふれた疾患に対する診療のコツ 平成24年度日本医師会生涯教育講座病院実習、大阪、2012年10月

中島伸：医療安全の基本知識 国立病院機構近畿ブロック事務所平成24年度医療安全管理者養成研修会、大阪、2012年12月

# 腎臓内科

伊藤孝仁

当科では、(1) 慢性進行性腎疾患の診断と治療、(2) 血液透析あるいは腹膜透析導・入腎移植への橋渡し、(3) 腎機能障害者（維持透析中ならびに非透析期）における合併症の予防ならびに診断と治療、(4) 急性腎障害（Acute Kidney Injury、急性腎不全）の診断と治療、(5) ネフローゼ症候群の診断と治療、(6) HIV 感染者診療における腎合併症の診断と治療・予防、(7) 難治性高血圧の原因診断と治療、(8) 副腎腫瘍や副甲状腺腫瘍の診断ならびに外科への橋渡し、(9) 内科的骨代謝異常の診断と治療、等を行っている。

慢性進行性腎疾患の代表例である IgA 腎症に対しては徹底した治療を行い高い寛解導入率を維持している。糖尿病性腎症に対しては、徹底した血管合併症の進行予防を行っている。難治性ネフローゼ症候群に対して、基礎研究機関等と連携して、より正確な診断と病態に則した適切な治療の提供を目指している。

腹膜透析治療は血液透析と異なる利点を有しており、現状より普及度を高める価値がある。腹膜透析に関して大阪府下複数施設の連携で新規に臨床研究プロジェクトを当院主導で開始した。今後も継続的に適応症例にたいして腹膜透析導入を推進する。

当院では多数の急性腎障害例がみられる。日常診療を通じて院内の治療成績向上に寄与したい。実際にはエンドトキシン吸着カラムと新世代の抗凝固薬であるトロンボデュリンを組み合わせることにより、急性腎障害の回復並びに救命成績を大幅に向上させており、学会等で報告を行っている。より高い治療効果を目指していく。

当科では初期研修医ならびに後期研修医に対する教育を厳しく、かつ丁寧に行っている。初期研修医の診療習熟度向上に対して大きく貢献していると自負している。また後期研修では腎専門医育成を目標とし、非常に多岐にわたる当科の診療対象について、論理的な思考と的確な診断アルゴリズムと治療選択が行えるように努めている。

今後とも地域医療機関と連携し、急性期病院としての当科の利点を生かしつつ、社会に貢献できるよう心がけたいと考えている。

## 【2012 年度研究発表業績】

### A-0

Imasawa T, Nakazato T, Ikehira H, Fujikawa H, Nakajima R, Ito T, Ando Y, Yoshimura M, Nakayama M, Yahata K, Sasaki O, Yaomura T, Katafuchi R, Yamamura T, Kawaguchi T, Nishimura M, Kitamura H, Kenmochi T, Shimatsu A. Predicting the outcome of chronic kidney disease by the estimated nephron number: the rationale and design of PRONEP, a prospective, multicenter, observational cohort study. BMC Nephrol. 13(11): doi: 10.1186/1471-2369-13-11, 2012.

### A-4

伊藤孝仁：関節リウマチにおける腎合併症。臨床リウマチ 25(1), 7-13, 2013



## B-2

Makino J, Makino K, Ito T. Hyper-beta 2 microglobulinemia seems to be a risk factor for ventricular abnormal relaxation with normal systolic function of the heart in hemodialysis patients. 49<sup>th</sup> EDTA-ERA Congress, Paris, France, 2012年5月

## B-4

中野知沙子、荒田夕佳、酒井佳奈紀、倭成史、和田晃、伊藤孝仁：バンコマイシン投与時の初回トラフ値と腎障害リスクに関する検討。第57回日本透析医学会学術集会、横浜、2012年6月

荒田夕佳、中野知沙子、酒井佳奈紀、倭成史、和田晃、伊藤孝仁：収縮能良好な非透析腎機能障害例における心機能パラメーターについて。第57回日本透析医学会学術集会、横浜、2012年6月

峰松佑輔、田岡幸恵、湊拓巳、森耕平、倭成史、和田晃、伊藤孝仁：腹水濾過濃縮再静注法（cart）による炎症関連物質HMGB-1濃度変化。第57回日本透析医学会学術集会、横浜、2012年6月

倭成史、荒田夕佳、中野知沙子、酒井佳奈紀、和田晃、伊藤孝仁：慢性腎臓病患者における血清尿酸値とCAVI (Cardio-ankle vascular index) の関係。第55回日本腎臓学会学術総会、横浜、2012年6月

伊藤孝仁、荒田夕佳、中野知沙子、酒井佳奈紀、和田晃、倭成史：eGFR変化量に対して尿蛋白・血清尿酸値が与える影響：単施設後方視解析。第55回日本腎臓学会学術総会、横浜、2012年6月

伊藤孝仁、荒田夕佳、中野知沙子、酒井佳奈紀、和田晃、倭成史：CKDは正常血糖下の尿糖出現に対するリスク因子。第55回日本腎臓学会学術総会、横浜、2012年6月

## B-5

伊藤孝仁：腎障害の内容と対策「RA診療における各種合併症対策」。日本リウマチ学会近畿支部学術集会シンポジウム、大阪、2012年9月

## B-6

荒田夕佳、倭成史、森影直子、藤村龍太、中野知沙子、酒井佳奈紀、和田晃、田村猛、中水流正一、三田英治、伊藤孝仁：急性腎障害(AKI)を併発した劇症肝炎に対してトロンボモジュリン製剤(rTM)が著効した1例。第42回日本腎臓学会西部学術大会、沖縄、2012年10月

三反田拓志、倭成史、荒田夕佳、中野知沙子、酒井佳奈紀、和田晃、伊藤孝仁、池田弘和、水野香織、井上信正：化学療法中の腫瘍崩壊症候群による急性腎障害に対してトロンボモジュリンが有効であった1例。第197回日本内科学会近畿地方会、神戸、2012年6月

福富啓祐、中野知沙子、荒田夕佳、酒井佳奈紀、倭 成史、和田 晃、伊藤孝仁：糖尿病性腎症に合併したびまん性肺胞出血の1例。第197回日本内科学会近畿地方会、神戸、2012年6月

藤村龍太、森影直子、荒田夕佳、中野知沙子、倭 成史、和田晃、伊藤孝仁：保存期CKD患者における血清亜鉛濃度と貧血の関連性について。第3回腎不全研究会、東京、2012年12月

#### **B-8**

中野知沙子：ミルセラ注の使用経験。「貧血」ナレッジアップデート、大阪、2012年10月

伊藤孝仁：臨床研究テーマのを見つけ方 データ整理と解析方法。PD臨床研究ベーシックセミナー、大阪、2012年11月

伊藤孝仁：ガイドラインにないCKD患者管理。CKD病診連携セミナー、大阪、2012年9月

伊藤孝仁：腎疾患と栄養管理。平成24年度NST実習技能研修、大阪、2012年5月

伊藤孝仁：HIV感染と腎障害。HIV感染症医師実施研修（1ヶ月コース）、大阪、2012年10月

#### **B-9**

伊藤孝仁：痛風 ABCラジオ 健やかライフ 2012年11月26日-30日放送分

# 糖尿病内科

瀧 秀樹

当科は糖尿病の治療ならびに合併症の早期発見に努め、QOL 改善に取り組んでいる。  
国立病院機構の共同研究として糖尿病性腎症発症進展阻止のための家庭血圧管理指針の確立  
(HBP-DN)、DPP-4 阻害薬による膵β細胞保護効果の検討、2型糖尿病を併せ持つ高血圧患者にお  
けるメトホルミンの心肥大・心機能に対する効果の検討に参加している。

## 【2012 年度研究発表業績】

B-2

T.Murata, Y.Aoki, Y.Kato, T.Tanaka, R.Araki, K.Kato, K.Hida, T.Kawamura, K.Yoshida, Y.Imamura,  
T.Toyonaga, K.Yamada, N.Sakane : THE INSULIN PUMP USAGE AND THE PATIENT  
CHARACTERISTICS IN THE T1DM COHORT AT NATIONAL HOSPITAL ORGANIZATION  
HOSPITALS IN JAPAN. 6<sup>th</sup> International Conference on Technologies & Treatments for Diabetes, France Paris,  
2013 年 2 月 *ence on Advance*

B-4

森本竹紗、豊田久子、西井遼子、重原万葉、加藤研、瀧秀樹 : 肝疾患合併糖尿病患者におけるリラ  
グリチドの効果と安全性の検討。第 55 回日本糖尿病学会年次学術集会、横浜、2012 年 5 月

木原理絵、岡本裕美、上野裕之、山内一恭、本田芳久、小森勝也、加藤研、瀧秀樹 : リラグリチド  
血糖降下作用への影響因子について。第 55 回日本糖尿病学会年次学術集会、横浜、2012 年 5 月

重原万葉、豊田久子、西井遼子、森本竹紗、加藤研、瀧秀樹 : 後期ダンピング症候群に miglitol を  
使用し、使用前後の血糖変動を CGM で観察した 3 症例。第 55 回日本糖尿病学会年次学術集会、横  
浜、2012 年 5 月

松岡孝昭、加藤研、山本恒彦、宮塚健、金藤秀明、下村伊一郎 : Mafa 結合蛋白の新規同定。第 55  
回日本糖尿病学会年次学術集会、横浜、2012 年 5 月

大谷弥里、大池教子、岡田彩、鳥山明子、浦田正司、風間敬一、加藤研、森本竹紗、豊田久子、瀧  
秀樹 : 教育入院中の 2 型糖尿病患者における EPA 強化の有効性。第 66 回国立病院総合医学会、神  
戸、2012 年 11 月

関直人、西村英夫、大谷すみれ、西村元伸、宇治原誠、青木雄次、小嶋俊一、田中剛史、八幡兼成、  
瀧秀樹、河田公子、肥田和之、小田賀明、田邊真紀人、吉住秀之、河部庸次郎、菊池秀年、石川光  
信、後澤乃扶子、吉岡恭子、米島正 : 糖尿病腎症進展阻止のための抗血小板薬 (シロスタゾール)  
の有用性に関する多施設共同プラセボ対照二重盲検用比較試験 (ATP-DN)。第 66 回国立病院総合  
医学会、神戸、2012 年 11 月

村田敬、青木雄次、加藤泰久、田中剛史、荒木里香、加藤研、肥田和之、河村智一、吉田和矢、今村洋一、豊永哲至：国立病院機構における CSII の使用状況と患者特性。第 12 回日本先進糖尿病治療研究会、岡山、2012 年 12 月

西村元伸、加藤泰久、田中剛史、東堂龍平、利根淳仁、山田和範、大谷すみれ、河部庸次郎、鈴木誠司、吉田和矢、吉住秀之、星山佳治：糖尿病腎症第 2 期における eGFR 測定の血圧管理上の意義 国立病院機構 EBM のための大規模研究 HBP-DN 班 第三報。第 24 回日本糖尿病性腎症研究会、東京、2012 年 12 月

大谷弥里、大池教子、岡田彩、鳥山明子、風間敬一、加藤研、森本竹紗、豊田久子、瀧秀樹：2 型糖尿病患者における EPA 強化の有効性。第 9 回国立病院栄養研究学会、岡山、2013 年 1 月

#### B-6

森本竹紗、豊田久子、重原万葉、加藤研、瀧秀樹：Klebsiella pneumoniae による腎周囲膿瘍から転移性眼内炎を来した 2 型糖尿病の一例。第 49 回日本糖尿病学会近畿地方会、京都、2012 年 11 月

加藤研、豊田久子、森本竹紗、重原万葉、瀧秀樹：2 型糖尿病教育入院患者の EPA/AA 比の検討。第 49 回日本糖尿病学会近畿地方会、京都、2012 年 11 月

森本竹紗、豊田久子、重原万葉、加藤研、瀧秀樹：高齢者に発症した IA-2 抗体陽性、GAD 抗体陰性の 1 型糖尿病の 1 例。第 199 回日本内科学会近畿地方会、大阪、2012 年 12 月

#### B-8

森本竹紗、重原万葉、豊田久子、加藤研、瀧秀樹：反応性低血糖にミグリトールを使用し CGMS にて血糖変動を観察した 2 症例。第 6 回大阪糖尿病臨床カンファレンス、大阪、2012 年 5 月

重原万葉：後期ダンピング症候群・反応性低血糖に対しミグリトールを使用し CGMS で血糖変動を観察した症例。第 27 回糖尿病セミナーおおさか、大阪、2012 年 6 月

瀧秀樹：2012 年のガイドライン改訂を受けて。患者さんと向き合う糖尿病治療、大阪、2012 年 6 月

加藤研：高齢 1 型糖尿病治療の問題点。糖尿病と脂質代謝異常を考える in OSAKA、大阪、2012 年 6 月

加藤研：1 型糖尿病の 3C と 2 型糖尿病の脂質異常症に対する当院の取り組み。糖尿病クリニカルカンファレンス、大阪、2012 年 7 月

森本竹紗：肝疾患合併糖尿病患者におけるビクトーザの使用経験。ビクトーザ症例検討会、大阪、

2012年8月

瀧秀樹: 高齢者へのランタスとDPP-4阻害薬併用療法について。第74回なにわ Doctor's Network、大阪、2012年9月

加藤研: 1型糖尿病の歩み。近畿つぼみの会（小児糖尿病）総会、大阪、2012年11月

加藤研: 発症まもない患者さんへ。第11回全国ヤングDMカンファレンス、大阪、2012年11月

瀧秀樹: 地域医療連携の中での糖尿病治療。東成区地区講演会、大阪、2012年11月

加藤研: 脂質代謝異常における冠動脈疾患のマネジメント。第3回心血管代謝フォーラム、大阪、2013年1月

瀧秀樹: 高齢者糖尿病患者の治療。食後高血糖フォーラム in なにわ、大阪、2013年2月

瀧秀樹: 食後高血糖に対するアログリプチンの有用性の検討。患者さんと向き合う糖尿病治療、大阪、2013年2月

瀧秀樹: ワインにまつわる気楽な話題から糖尿病治療薬の選択まで。食と健康を考える会～糖尿病を考える会～、大阪、2013年3月

加藤研: 1型糖尿病患者の診療を楽しむために必要な知識について。第1回阪大1型糖尿病塾、大阪、2013年3月

加藤研: 当院の1型患者の現況について。第2回中央区カーボカウントカンファレンス、大阪、2013年3月

# 血液内科

井上信正

血液疾患（造血器悪性腫瘍、貧血および出血性疾患等）の治療を行っている。血液疾患、特に造血器悪性腫瘍の治療は造血幹細胞移植の出現以後、単クローン抗体による治療、分子標的治療と進歩が著しい。また、従来行われている化学療法の結果も良好で一部の疾患では化学療法単独での治癒も稀ではない。しかし、高齢者や合併症を有する症例および化学療法に対する感受性が悪い例の治療法が今後の問題として残されている。我々の治療方針は造血器悪性疾患では同種末梢血幹細胞移植等、治癒を目指す最新の治療法を積極的に行うと共に、後者のような症例については QOL を重視した治療法の選択を考慮している。血液内科では大学病院や血液内科を標榜する専門病院と同等のレベルの治療を行い、一方個々の患者様とのコミュニケーションはそれ以上のものを保つように常に努力し、原則として疾患の種類や重症度で大学病院など他院に紹介する事は行わず、専門外の疾患を除いたすべての血液疾患を本院で加療するように心がけている。

## 【2012 年度研究業績報告】

B-6

多田雄真、水野香織、池田弘和、井上信正：前駆型リンパ芽球性リンパ腫と鑑別が困難であった慢性骨髄性白血病随外性急性転化の一例。第 98 回近畿血液学会地方会、平成 24 年 12 月 1 日 京都テルサ（京都府、京都市）

# 呼吸器内科

小河原光正

呼吸器内科は呼吸器悪性腫瘍（肺癌，胸膜中皮腫など）を専門として診療を行っており，呼吸器外科，放射線診断科，放射線治療科，臨床検査科と協同で肺癌の診断及び化学療法を含む集学的治療を行っている。また，気管支鏡診断に力を入れている。呼吸器外科と共同で肺癌の診断と治療に関する研究発表，症例報告を行った。

また，当院の感染症科が HIV/AIDS 診療の西日本の中心施設として多数の症例を診療しており，HIV/AIDS に合併する様々な呼吸器病変，特に結核が重要な問題であるためクオンティフェロンに関する研究を行い発表した。また，国立病院機構共同研究，大阪大学呼吸器内科/大阪府立成人病センター，徳島大学呼吸器・膠原病内科，近畿中央胸部疾患センターなどから依頼された多施設共同臨床試験へも参加・協力した。東北大学・徳島大学のがん診療の経済的な負担に関するアンケート調査(厚生科研濃沼班)研究に協力した。

## 【2012 年度研究発表業績】

### B-4

木村剛，小河原光正，笠井大介，上平朝子，白阪琢磨：クオンティフェロン TB-2G 測定結果の検討． 第 86 回日本感染症学会総会．長崎，2012 年 4 月．

高見康二，大宮英泰，中森正二，安藤性實，木村剛，宮本智，小河原光正，栗山啓子，真能正幸，辻仲利政：イレッサを長期内服後に手術切除を施行した肺腺癌の 1 例．第 53 回日本肺癌学会総会．岡山，2012 年 11 月．

大宮英泰，高見康二，中森正二，辻仲利政，小河原光正，栗山啓子，真能正幸：腫瘍径 20mm 以下の非小細胞肺癌手術例における術前 FDG-PET に関する検討．第 53 回日本肺癌学会総会．岡山，2012 年 11 月．

### B-7

小河原光正，木村剛，松野裕旨，高見康二，大宮英泰，矢嶋敬史郎，白阪琢磨，児玉良典，真能正幸：長期間 ART 未導入の HIV 感染者に偶然発見された肺内結節が 5 ヶ月の経過で軽度増大し，手術により単発性線維性腫瘍(solitary fibrous tumor; SFT)と診断された一症例．市民公開講座第 14 回白馬シンポジウム in 京都．京都，2012 年 6 月．

# 脳卒中内科

多賀谷昌史

急性期脳梗塞患者さんを対象に Stroke Team での診療を行っています。主に SCU (Stroke Care Unit : 脳卒中ケアユニット 6 床) に急性期患者さんを受け入れ、効率的な治療を目指し日々の診療に努力しています。当院での集中治療 (発症 4.5 時間以内の tPA 治療を含む) から回復期リハビリテーションへの継ぎ目のない医療を患者さんに提供することを目的に、2008 年より脳卒中地域連携パスを使用し、より充実した脳卒中診療を行っています。

今後もスタッフ一同、より一層の研鑽を積んで参りたいと考えています。よろしくお願い致します。

## 【2012 年度研究発表業績】

A-0

Ohara N, Sakaguchi M, Okazaki S, Nagano K, Kitagawa K : Internal carotid artery dissection caused by an elongated styloid process: usefulness of transoral ultrasonography. J Stroke Cerebrovasc Dis. 2012 Nov;21(8):918.e7-8. (2012 年 11 月)

Kuwashiro T, Toyoda K, Oyama N, Kawase K, Okazaki S, Nagano K, Koga M, Matsuo H, Naritomi H, Minematsu K : High Plasma D-Dimer Is a Marker of Deep Vein Thrombosis in Acute Stroke, Journal of Stroke Cerebrovascular Diseases. Vol.21,N0.3(April),205-209,2012. (2012 年 4 月)

Matsumoto M, Sakaguchi M, Okazaki S, Furukado S, Tagaya M, Etani H, Shimazu T, Yoshimine T, Mochizuki H, Kitagawa K. Relationship between Plasma D-Dimer Level and Cerebral Infarction Volume in Patients with Nonvalvular Atrial Fibrillation. Cerebrovasc Dis. 2013; 35 :64-72 (2013 年 2 月)

A-4

玄富翰 長束一行 : 頸動脈エコーにおける不安定プラーク判定のコツ「Vascular Lab」 9 (6) : P604-608、2012 年 12 月

B-4

永野恵子、河野友裕、玄富翰、多賀谷昌史、恵谷秀紀 : 当院における walk-in 虚血性脳血管障害例の臨床像。第 37 回日本脳卒中学会総会、福岡、2012 年 4 月

玄富翰、永野恵子、河野友裕、水野香織、池田弘和、井上信正、多賀谷昌史、恵谷秀紀 : 血液疾患を有する脳卒中患者の臨床的特徴。第 37 回日本脳卒中学会総会、福岡、2012 年 4 月

河野友裕、玄富翰、永野恵子、多賀谷昌史、恵谷秀紀 : 軽症急性期脳血管障害の症状増悪因子と治療に関する検討。第 37 回日本脳卒中学会総会、福岡、2012 年 4 月



松本真林、坂口 学、岡崎周平、三輪香織、田中真紀子、古門成隆、多賀谷昌史、恵谷秀紀、北川一夫：非弁膜症性心房細動症例の脳梗塞体積と血漿 D-dimer 値。第 15 回日本栓子検出と治療学会、大阪、2012 年 10 月

木村陽子、玄富翰、永野恵子、多賀谷昌史、恵谷秀紀：虚血性脳卒中患者における脳内微小出血の継時的変化に関する検討。第 38 回日本脳卒中学会総会、東京、2013 年 3 月

#### **B-8**

永野恵子：臨床における頸動脈エコーの実際。第 7 回中央区開業医病診連携の会 大阪 2012 年 8 月